
安心緊急避難サービスZ

莓大福

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

安心緊急避難サービス

【Nコード】

N1725K

【作者名】

蓐大福

【あらすじ】

ある日、男の家に保険会社の勧誘がやってきた。それはまったく新しい画期的な商品の勧誘であった。

(前書き)

いらっやいませ。ちょっと読んでいってくださいな

安心緊急避難サービス

男の自宅にとある保険会社の社員を名乗る男がやって来た。「ごめんください。」

男はドアを開けた。保険会社の男はすかさず開いたドアに足を挟み閉められないようにした。

「お忙しいところすいません！〇〇保険会社の者なんです。新サービスの案内に来ました。是非5分位でけっこうなんでお話だけでも聞いてもらえないでしょうか？」

男は面倒くさそうな奴が来たと思ったがちょうど嫁も留守にしているし、ちょっとからかってやるうと思いい話を聞く事にした。

「じゃあ少しだけだよ！」

保険会社の男はにやりと笑う。そして少し得意げに話し始めた。

「実は当社においてこの度画期的な新商品が販売となりました。その名も安心緊急避難サービスです！通常保険会社というものは事故災害病気または死亡などといった事柄に対して後日に金銭をお客様に支払う事で保障するものが一般的なんです。この商品は不幸や緊急事態が発生した時に備え、事前に回避する事を目的としています。つまりこれさえあれ

ば、何か危険な目にあう前に避難出来るという訳です。」

男は首をかしげなら言った。

「どつやって??避難てどこに???」

保険会社の男はその質問待ってましたと言わんばかりに更にパンフレットを見せながら得意げに話し始めた。

「いい質問です!とにかく貴方がその場から逃げたいと思つたらこの消火器ほどの大きさのタンクを背中に背負いタンク上部に付いているこちらのボタンを押してください。

いかなる危機からも貴方を救ってくれます。ただしちよつとやさつとの事で使ってもらつては困ります。最悪の時だけにしてください。」

保険会社の男はそう言つて大きなリュックからその避難装置を取り出して男に見せた。そして話を続けた。

「安心緊急避難サービスZのZはローマ字の最後の文字ですよね?つまりこの商品の使用に関しては最後の手段という訳です。後どこに避難するかは企業秘密となっております。お答えできないのでご了承ください。ただ安全な所とだけ言っておきましょう。」

男は聞いた。

「だいたいわかったよ。面白そうな物だね?んでその装置はいくらするんだい?」

保険会社の男は答えた。

「一台10万円となります。少しお高いですがこれで緊急事態を回避出来るのですから安い買い物だと思いますよ。」

男は少々迷ったが危機を回避できるならと思いつき決意をした。部屋の奥から財布を持ってきて10万円を保険会社の男に渡した。

「ありがとうございました。きっとこの装置が貴方を守ってくれますよ。」

保険会社の男は嬉しそうに帰って行った。

それからしばらくして・・・

男はさつそくその装置を背負ってみた。装置は以外と軽い、タンク上部に付いているボタンを押してみたい衝動にかられていた。とそこへ嫁が帰ってきた。

「ただいま。あんた背中に何背負ってるの？」

男は答えた。

「ん？これか？安心緊急避難サービスズって言う避難装置らしいんだよ。かっこいいだろ！10万もしたんだぞ！」

女はすごい形相で男に言った。

「また変なもの買って！！」

怒り狂った女は台所にある包丁を持って来て男に向けた！
男はとっさに安心緊急避難サービスZのボタンを押した！

ぶしゅううううううううううう。

タンクから強烈な火花がでて男の体は瞬時に宙に舞い天井に
頭が刺さった。

すぐに男は救急車で病院に運ばれた。首の骨を折る重傷だ
った。

のちにわかった事だが保険会社の社員を名乗る男はただの詐
欺師だった。ただ安全な所に避難出来たのは事実である。

(後書き)

最後まで読んでくれてありがとうございます。
ご感想なんでも受付中です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1725k/>

安心緊急避難サービスZ

2010年12月13日20時36分発行